

研究テーマ	生徒一人一人が主体的に活動できる美術科学習指導の在り方 ー中学3年「日本画の画材を使って花や果物を描こう」の実践を通してー
-------	--

牛久市立牛久第二中学校 教諭 飯島 稔夫

I 研究テーマについて

美術科の「表現」の学習においては、題材の設定や課題の工夫によって生徒一人一人が創造的に制作に取り組めるようにしてきているが、生徒の興味・関心を高めることは難しい。また、鑑賞においては、イラストレーションや現代美術の作品には関心が高い生徒が多いが、伝統文化に関する関心は低い。

学習指導要領解説では、平成20年度の改訂で、『「生きる力」を育むための学力の重要な要素として基礎的・基本的な知識・技能の習得、知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等や、学習意欲の向上が求められている。「美術の基礎的能力」は、基礎的・基本的な知識・技能、思考力・判断力・表現力等を含むものであり、その育成には、生徒の主体的な学習活動の中でこれらの能力が関連しながら、十分かつ有効に働くようにすることが重要である。』とされている。また、『「美術文化についての理解」を深めることも、この改訂で新たに加わった内容である。美術においては、古くからの美術作品や生活の中の様々な用具や造形などが具体的な形として残されており、受け継がれてきたものを鑑賞することにより、文化の継承と創造の重要性を理解するとともに、美術を通じた国際理解にもつながることになる。』とされている。

これらのことから、鑑賞と表現の関連を図り、興味関心を高めながら、生徒一人一人が主体的に活動に取り組める題材の工夫と、これまでの図工・美術の学習では使うことがなかった日本画の画材を用いた表現活動を行うことにより、生徒の興味・関心を高めた学習を行うことができるのではないかと考えた。また、日本画作品の鑑賞から日本画独特の色彩や構図などに注目させ、独特の色彩を生み出す日本画の画材（今回は水干絵の具と岩絵の具）を使ってみることにより、生徒の興味・関心を高めるとともに、日本文化への理解を高めることができるであろうと考え、研究テーマを設定した。

授業においては、鑑賞と表現の関連を図り、前題材で鑑賞した作品で使用している絵の具が、普段自分たちが使っているものと違っていることに注目させ、それを使って自分も描いてみたいという気持ちを高め、学習意欲が高まるようにしていきたい。また、絵を描くことが苦手であると感じている生徒にも主体的に学習に取り組めるように単純な課題を設定することとした。

II 研究の実際

1 題材名 日本画の画材を使って花や果物を描こう

2 題材の目標

- 日本画の画材や表現方法に関心をもち、主体的に創意工夫して表したり、表現の工夫などを感じ取ったりすることができる。 (関心・意欲・態度)
- 日本画作品の鑑賞で感じたことをもとに、日本画の画材の色彩の美しさなどを考え、表現の構想を練ることができる。 (発想や構想の能力)
- 日本画画材の特性を生かし、表現意図に合う構図や色合いを工夫するなどして、手順などを考えながら見通しをもって表現することができる。 (創造的な技能)

- 完成した作品を鑑賞し、構図や色彩の工夫について話し合うことができる。

(鑑賞の能力)

3 題材について

(1) 生徒の実態 (男子10名, 女子20名, 計30名)

質問内容	回答
①美術の学習 (作品の制作) は好きですか。	好き… 5人 どちらかといえば好き… 16人 どちらかといえば嫌い… 6人 嫌い… 3人
②絵の具を使って絵を描くことは得意ですか。	得意… 3人 どちらかといえば得意… 8人 どちらかといえば苦手… 15人 苦手… 4人
③日本画の画材を使って絵を描いてみたいですか。	使ってみたい… 19人 どちらかといえば使ってみたい… 6人 どちらかといえば使いたくない… 3人 使いたくない… 2人

本学級の生徒は女子が多く、イラストを描いたり、簡単な絵を描いたりすることが得意な生徒が多い。半面、美術は好きであるが、絵を描くことが苦手と感じている生徒が多い。また、日本画の鑑賞の授業をする前には、日本画は見たことがあるものの日本画についての知識や画材についてはほとんど知らない状態であり、この題材で使用する水干絵の具や岩絵の具を使ったことがある生徒はいなかった。そのためか、日本画の画材 (墨・水干絵の具・岩絵の具) を使って絵を描いてみたいという生徒が多かった。

(2) 題材観

本題材は日本画の鑑賞の後で日本画の制作に使う画材を使ってみることによって、日本画独特の色合いや表現が生まれていることを体験し、日本画の画材や表現方法への関心を高めることを目標に学習を進めていきたい。日本画の鑑賞では、墨や日本画の絵の具がもっている豊かな魅力ある色彩に触れ、伝統文化の中で大切にされてきた繊細な感性やその良さに気づくことができるようにして、それを本題材では実際に使ってみたいという意欲につなげ、日本の伝統文化である日本画への関心を高めることができるようにしていきたい。

(3) 指導観

本題材のねらいは、日本画の表現に触れ、日本画の画材を使ってみることによって日本画に対する理解を深めていくところにある。日本画的だなと感じるモチーフである花と果物を描く課題を設定し、画仙紙が張られた色紙に描くことで、和紙にも抵抗なく描けるようにする。さらに、絵の具や筆などの使い方と使う絵の具の色を選ぶことに意識を集中させて制作に取り組むことによって、日本画の画材の特徴や使い方を理解し、日本画を再現することができるようにしていきたい。

4 題材の評価規準

関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
日本画の画材や表現方法に関心を持ち、主体的に創意工夫して表そうとする。	日本画作品の鑑賞で感じたことをもとに、日本画の画材の色彩の美しさなどを考え、表現の構想を練ることができる。	日本画画材の特性を生かし、表現意図に合う構図や色合いを工夫するなどして、手順などを考えながら見通しをもって表現することができる。	完成した作品を鑑賞し、構図や色彩の工夫について話し合うことができる。

5 指導と評価の計画（7時間扱い）

時間	学習内容・活動	評価規準・【評価方法】
第1次 ①	<ul style="list-style-type: none"> 日本画について鑑賞の授業を振り返る。 日本画の画材について知る。 日本画ではどんな画材を使っているのか調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> 日本画の画材に興味を持ち、どんな画材があるのか調べようとしている。 【関】【観察・ワークシート】
第2次 ①	<ul style="list-style-type: none"> 描くモチーフを決め、日本画らしい構図を考えて下絵を描く。 	<ul style="list-style-type: none"> モチーフを決め、日本画らしい構図を考えて下絵を描くことができる。 【想】【観察・作品】
第3次 ④ (本時 2/4)	<ul style="list-style-type: none"> 下絵をもとに色紙に描く。 下絵を色紙に転写する。 色紙に墨で骨描きをする。 水干絵の具を使って彩色する。 岩絵の具を使って彩色する。 	<ul style="list-style-type: none"> 日本画の画材の使い方を理解し、手順を考えながら彩色することができる。 【創】【観察・作品】 日本画の画材に興味を持ち、手順を考えながら彩色しようとしている。 【関】【観察】
第4次 ①	<ul style="list-style-type: none"> 作品を相互鑑賞し批評しあう。 ワークシートに学習の感想を記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> 完成した作品を鑑賞しあい、構図や色彩の工夫について話し合うことができる。 【鑑】【観察・ワークシート】

6 指導の実際

(1) 活動の様子

<第1次>

導入では、日本画作品の鑑賞の授業で「うしく現代美術展」に出品されていた作品を会場で鑑賞し、絵の具の色合いや表現に着目して見てきたことを、映像を見ながら振り返る活動をした。ここでは、油彩画や水彩画とは違った感じがしたということを手掛かりに、どのような画材を使って描いたのかに関心をもたせ、インターネットを使って調べる活動を行った。

生徒は、すぐに水干絵の具や岩絵の具、顔彩、墨などを使っていることに気付いたが、墨以外は実際にどのようなものなのか見てみたいという



感想が挙げられた。この感想を拾う形で、次回からの授業で実際にこれらの絵の具を使って描いてみようということにつなげた。

<第2次>

制作の段階では、課題として「日本画の絵の具を使って、花や果物の絵を描こう」と提示した。これは、複雑な作品ではなく、古くから絵の題材として取り入れられているものであり、日本画の絵の具を使ってみようという今回の学習の目的に合ったものであるからである。

はじめに、実物や写真をもとにスケッチを行い、単純化や日本画らしい配置を考え、下絵を作成した。この時に参考作品を提示し、生徒が自分の作品をイメージしやすく



するとともに、画面の中への配置についても考えるようにさせた。

できた下絵は、そのまま色紙に転写し、墨で骨描きを行った。デザインで面相筆を使っているが、日本画用の面相筆は柔らかく、勝手が違うようで試行錯誤する生徒が多かった。

骨描きが終わったところで、指導案の「水干絵の具を使ってみよう」という授業を行い、

1時間で3~4色を使って彩色することができた。この時間には、ビデオで絵の具の使い方を見たり、実物投影機を使って、教師の実演を見たりすることができるようにするとともに、教室の側面には手順を掲示するなどして、生徒一人一人が手順を確認しながら主体的に活動できるように工夫した。生徒は緑、赤、黄など乾くときれいに発色する絵の具や緑には多くの色があり、自然の本物に近い色があることなどに気付くことができた。また、一つ一つの色を丁寧にすりつぶしたり、溶き皿の中で練ったりすることを通して、一人一人の生徒がしっかりと学習に取り組むことができた。



制作の最後の時間を使って、岩絵の具の使い方の学習を行い、全体に使うことはできなかったが、絵の中心になるところに岩絵の具で彩色することができた。



<第3次>

学習の最後に作品の相互鑑賞会を行い、よくできたところや日本画の画材を使った作品の特徴などについて見つける学習を行った。

(2) 本時の学習

- ① 目標 日本画の画材に興味をもち、水干絵の具の使い方を知り、水干絵の具を使って彩色することができる。
- ② 準備・資料 水干絵の具、岩絵の具、練習用の画仙紙、溶き皿、膠、彩色筆、テレビモニター、実物投影機、絵の具の使い方のビデオ、DVDデッキ
- ③ 展開

学習活動・内容	指導上の留意点 ◎評価 (○個への配慮)
<p>1 本時の課題を知る</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>水干絵の具を使ってみよう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・墨で骨描きをした作品に、水干絵の具で着色をする。 ・水干絵の具は粉状の絵の具で、このままでは着色できないので、使えるように準備する必要がある。 <p>2 水干絵の具の使い方を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビデオを見て大まかな流れを知る。 ・教師の実演を見て絵の具の溶き方を理解する。 ・グループごとに水干絵の具を溶いてみる。 絵の具を溶く手順、絵の具・膠・水の量が分かるようにする。 <p>3 自分が使いたい色を選び、自分で準備して作品に着色する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同じ色を使う場合は何人かで協力して準備してもよいが、必ず一人1回は準備できるようにする。 <p>4 本時の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに本時の振り返りと反省を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本画の画材の種類について学習したことを振り返り、その中の水干絵の具を使って彩色することを確認する。 ・普通の絵の具は顔料とそれを固めるものが混ぜられていることを確認する。 ・ビデオを見て大まかな流れをつかむようにするとともに、ワークシートに記入して確認できるようにする。 ・4人グループで協力して、ビデオで見た手順で絵の具を溶いてみる。 ○机間指導をして、必要なグループに助言を与える。 ・教室後方のテーブルに必要な道具や水干絵の具を用意し、生徒一人一人が活動できるようにする。 ○絵の具や膠、最後に加える水の量に対する質問があると思われるので、生徒の近くで必要に応じて助言を与えるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>◎水干絵の具の使い方を理解し、水干絵の具を使って彩色することができたか。 (観察・ワークシート・作品)</p> </div>

III 研究の成果と課題

1 成果

今回の実践では、鑑賞と表現の関連を図るとともに、制作の手順をはっきりと示すことにより、生徒一人一人が主体的に活動に取り組み、学習への関心・意欲を高めることができたと感じている。生徒は「面白そう」であるとか「やってみたい」という気持ちをもつことが

できれば、とても熱心に活動に取り組むことができることが改めて示されたと思う。また、難しかったり、面倒くさかったりすることは避けたいという気持ちが強い生徒も多いが、グループで協力したり、手順を十分に理解していたりすることに関しては、最後まであきらめずにとりくむことができることが分かった。また、今回は中学校ではあまり取り扱わない日本画画材の使い方についての学習を行ったが、水墨画の授業よりは生徒の関心・意欲が高かったように思われるとともに、



作品を色紙に描いたことは、そのまま掲示できるという利点もあり、生徒は「こんな作品をつくってみたい」という意欲につながったと考える。

2 課題

生徒一人一人が主体的に活動（学習）していくことについての今後の課題は、題材や学習課題の設定の工夫にある。今回の実践のように鑑賞と関連させるとともに、初めて使う画材を用いた学習では、生徒の興味・関心が高まることが分かったが、中学生の学習内容である心の世界やイメージを表現するときには、作品の構想を練る段階であきらめてしまう生徒が多いことが挙げられる。このようなときにいかにして生徒一人一人の創作意欲を掻き立て、主体的に活動に取り組むことができる題材や学習課題、学習の進め方の工夫について検討し実践していきたい。

※参考資料

- ・ 中学校学習指導要領解説 美術科編 文部科学省 平成20年
- ・ 「日本画」用具と描き方（初級技法講座）堀川えい子 美術出版社 1995年
- ・ 美術2・3上 教師用指導書 日本文教出版 平成28年

画像資料

(1) 掲示物

日本画の制作（手順）

- 1 何の絵を描くかを決め、スケッチする。
- 2 スケッチした絵を、和紙に転写する。
- 3 転写した絵を墨でなぞる。（骨書き）
- 4 水干絵の具で着色する。
- 5 岩絵の具で着色する。（完成）

水干絵の具の使い方

1 絵の具をすりつぶす

小さな紙に水干絵の具を適量取り出し、筆の穂の部分で転がして絵の具の塊をつぶす。
 （本来は乳鉢を使うが、使う絵の具が少ない場合にはこの方法でつぶす。）

紙に少量取り出す。 筆の穂を使って塊をつぶす 塊をつぶした水干絵の具

2 溶き皿に絵の具を入れ、そこに膠（にかわ）を少しずつ入れながら溶いていく。
 膠の量は、墨（すみ）の半分程度

溶き皿に絵の具を移す。 膠（にかわ）を少量ずつ加える。 筆の穂を使って溶く。

3 膠で溶いた絵の具に水を加え、さらによく溶いて使いやすい濃さにする。
 （水は、膠（にかわ）の量の3倍程度入れる。）

水を加えながら溶いていく。

(2) 生徒作品

